

C-38 和服構成における教材研究(才三報) 袖丈について.

四国女大家政 戸田艶子 の妹尾多恵子

目的. 指導上問題を感じていた和服寸法について, ゆき丈, 着丈について袖丈の検討を試みた。袖丈は, 一般に身長のお分の1を基準に, 好み, 年齢によって加減されているが, 学生の好み, 家族の好み, また無関心の中で指導上の問題を感じてきた。今回は, 若い人のなか下妥の場合の体格と袖丈の関係を把握し, 指導上の参考にしたいと考之, 本調査を行なった。

方法. 被験衣; 阿波しじら製単長着, 袖丈35~65cmで, 5cm間隔。着用者; ロール指数130前後で, 身長150~166cmで, 約5cm間隔の者, 身長156cm前後で, ロール指数115.5, 142.1, 171.2, の者。刺激; 袖丈の異なる単長着着用者49種の写真(12x8) 被験者; 和服構成要講の本学マ生93名。調査方法; SD法。調査時期; 昭和48年6月, 7月。

結果. 身長と袖丈; 快, 美, 良の得点が最も高くあらわれたのは, 袖丈=身長-110であった。身長155cm以下の場合には, +5cm, 160cm以上の場合には-5cmに得点差=位がみられた。評価得点の高い袖丈は, 他のお丈に較べ, 調和, 拮据, きちんとした感じの得点が高い傾向がみられた。肥瘦と袖丈; 明瞭な関係はみられなかった。瘦身体の場合には, 評価得点に袖丈間差がみられるが, 肥満体の場合には, 袖丈間差が小さくなる傾向がみられた。